中央認こ

時期：５歳児（４月～１１月頃）

自分なりのイメージの実現や友達との関わりの場として楽しんでいる。また，砂や水，自然物にも触れることで，科学の芽生えにもつながっている。

【10 の姿】 思考力の芽生え 協同性

支援のポイント（思いをつなげる）

本園は２つの園舎に分かれているため，年長児になると「５歳児だけの砂場」の環境となる。

最初は，水や道具をたっぷりと使いながら，自分のやりたいことの実現ができるよう保育教諭も一員となり遊ぶ。その中で，友達の考えの面白さに気付けるようつぶやいたり，降園時に遊びの共有をしたりして，つながりを深められるようにしている。遊びの様子を見て，様々な大きさの雨どいや塩ビ管，底の開いたバケツなども用意し，自分達で選択したり，試行錯誤したりできるような環境を整えている。徐々に，声をかけ合ったり，役割分担したりして，共通の目的に向かって遊ぶ姿が見られる。子どもたちの「やってみよう」がどんどん広がっていくような言葉かけや環境設定を心がけている。

具体的な子どもの姿

水の心地よさや，水が流れていく面白さ気付くと，水路や海に変身！気付けは，裸足になって夢中で遊んでいる。道具や感触を楽しみながら料理をしたり，穴あきバケツでケーキを作ったり…子どもたちの遊びはどんどん広がっていく。魅力的な道具，自然物も大切な環境の一つであり，試行錯誤しながらそれぞれの遊びが進んでいく。

保育教諭は子どもたちの気付きに共感・共有しながら遊びが深まるように関わっている。遊びを通して，友達のよさに気付き，思いを伝える難しさも感じながら共通の目的に向かって遊ぶ充実感を味わっている。

砂遊び

時期：１年生（４月下旬～７月）

単元名「あそびけんきゅうたい」

学校探検から始まり，校庭遊びを中心としていく。１年生は，幼児期で経験した遊びを基に，自分らしい遊びを見いだし，試行錯誤しながら遊びを繰り返し，友達の遊びのよさにも気付いていく。

支援のポイント（道具から広がる遊びの発想）

単元の最初は，校庭にある物だけで遊ぶ。木の枝や木の実，花びら等の自然物に着目する子ども，友達との関わりから派生する遊びに気付く子どもと様々である。遊ぶ意欲の高まりが学級全体に見えてきた頃に教師は，砂遊びの道具を子どもに紹介する。子どもの中には，道具を使うことで，さらに自分らしい遊びができることに気付く子もいる。そんな友達の様子から「だったら・・・しよう」とほかの子どもにもアイディアが広がるように環境を整えている。

【 幼児教育との関連 】

☆　道具を出すタイミングにも教師はこだわります。

具体的な子どもの姿

遊びを進めると，自分なりのこだわりをもって遊ぶ子どもの姿が多くなる。偶然できた，雨の池でオリジナルの船をつくる子ども。花びらを集めて，毎回素敵な食べ物屋さんを開く子ども。道具を協働して使い，温泉をつくる子ども。そんな，アイディア溢れる子どもたちになるのは，遊びの活動後に行う振り返りの効果だと考える。４種類のカードを選び，自分の一番心に残る思いを毎回記録していく。記録を板書することで，友達の思いにもふれ，次の遊びへの意欲を高めている。

三小

【10 の姿】 思考力の芽生え 豊かな感性と表現

【３つの資質・能力】 思考力，判断力，表現力等の基礎

（遊びや遊びに使うものを工夫してつくる）